

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 2月 28 日

事業所名: きらり中庄(放課後等デイサービス)

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|---|---|----|-----|--|---|
| 環境・体制整備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | バギーの台数が増え、狭いと感じたらバギーを廊下に移動している。 ・マットの大きさを変化させて調整している。 | クラス内の人数やバギーの台数を事前に把握して、バギーの移動やマットの広げ方(広さ)の調整が必要である。 |
| | ② | 職員の配置数は適切である | ○ | | | |
| | ③ | 事業所の設備等については、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | ○ | | スロープや送迎駐車場の屋根等設置している。 | 不要な物品を整理する。 |
| 業務改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 定期的に振り返りながら改善努力している。 | |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 要望や意見への対応は、通信で保護者周知している。 | 保護者から頂いた意見を職員ひとり一人が意識できるように書面化する。 |
| | ⑥ | この自己評価表を事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | 市のHPで公表している。 | 法人HPでも公表する。 |
| | ⑦ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | ○ | | 事業計画の中で改善策を提案し、実施している。 | |
| | ⑧ | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 事業所内、法人内研修だけでなく、外部研修の機会も設けている。 | |
| 適切な支援の提供 | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | ・要望書や面談、日々のやり取りの中でアセスメントを行っている。 ・話し合いながら課題を分析し計画に反映させている。 | |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 事業所で作成したアセスメントシートを使用している。 | 重症児支援の標準化されたアセスメントツールを活用すべきか検討する。 |
| | ⑪ | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 話し合いを重ね立案している。 | 一年間を見通して活動を計画し保護者へ伝えたい。 |
| | ⑫ | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | ・固定化することで重症児の変化や安定が期待できる活動は固定化する。 ・季節の行事も積極的に取り入れている。 | 学校や家庭では経験していない活動を保護者から聞きだし、計画する。 |
| | ⑬ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | 長期休暇は利用時間が長く、平日では取り組めない活動を実施している。 | |
| | ⑭ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画作成している | ○ | | | |
| | ⑮ | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 必ず緊急時対応も含めて確認している。 | |
| | ⑯ | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 口頭伝達やノートに記入し回覧し共有している。 | |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|---|--|--|---|
| | ⑰ | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 保護者とは連絡帳で共有している。日々の支援は書面に情報を残している。 | |
| | ⑱ | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | モニタリングは受給者証の更新時期に合わせている。目標が達成すれば、その都度見直している。 | |
| | ⑲ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている | ○ | | 年間の行事やイベント予定を伝え、希望者が参加できるようにしている。 | 地域活動など、より取り入れる必要がある。 |
| 関係機関や保護者との連携 | ⑳ | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 担当職員が参加している。事前に確認事項を共有している。 | |
| | ㉑ | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | 学校の迎え時に担任の先生と話すようにしている。学校の連絡帳を読ませてもらう。質問事項があれば、時間を作っていただき確認する。 | 情報共有は、内容を深めたり機会を増やしたりする必要がある。 |
| | ㉒ | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | ○ | | 主治医を訪問し、指示書の内容を確認している。主治医の指示書や保護者から情報を得て連絡体制を整えている。 | 主治医や協力医療機関、嘱託医と直接あつて話す機会を増やしたい。 |
| | ㉓ | 就学前に利用していた保育園や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 書面で情報を共有している。一部の園には、訪問して様子を把握している。 | |
| | ㉔ | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | 生活介護事業所の職員を招き、茶話会にて保護者が質問できる場を設けた。 | 現在は、対象児がいない。 |
| | ㉕ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 同じ建物内にセンターがある為、連携を取りやすい。 | |
| | ㉖ | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある | ○ | | 法人内の兄弟児等との交流の場を設けているが、児童クラブなどの交流には至っていない。 | 交流の場や機会を設ける。 |
| | ㉗ | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | | 協議会が開催する放デイ研修に参加しているが、職員への周知不足である。 | 職員へ周知する。 |
| | ㉘ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 送迎時に十分な時間を確保して保護者と話している。連絡帳にて様子を伝えている。 | |
| | ㉙ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | | 重症児の保護者が求める対応力向上につながる支援を検討すべきである。 ・年に4回以上、茶話会を開催 |
| | ⑳ | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | 特定の職員が保護者説明をする場合が多い。 | 説明できる職員を育成する。 |
| | ㉑ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 重症児の保護者ならではの悩みや考えを面談等で聞きとれるように努力している。 | |
| | ㉒ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | 茶話会は実施している。 | 茶話会を通じて保護者連携をサポートする。 |

| | | | | | | |
|------------|----|---|---|--|--|--|
| 保護者への説明責任等 | ③③ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | ご意見箱を設置した。頂いた苦情や意見は、他の保護者へも通信で対応方法を周知している。 | |
| | ③④ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | 毎月、事業所の通信を作成し発信している。 | |
| | ③⑤ | 個人情報の取扱いに十分注意している | ○ | | 写真を掲載する際は、事前に保護者に許可を求めている。 | 注意する必要がある。 |
| | ③⑥ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | 言葉以外の表現も引き出している。関係性を気付いて、表出を引き出している。 | |
| 非常時等の対応 | ③⑦ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | 行事「ひかりランド」を開催し、地域の重症児にも参加いただく機会を設けた。 | |
| | ③⑧ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 職員には、説明したり訓練を行い実地で伝えたりしている。保護者には、通信で訓練実施を伝えている。 | マニュアルの存在を保護者に提示する。 |
| | ③⑨ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 毎月、火災や洪水、不審者を想定し訓練している。医療的ケアが必要なお子さんの避難訓練も行っている。 | |
| | ④⑩ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 毎月、行動指針を掲げている。 | |
| | ④⑪ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | 放課後等デイサービスの計画にも記載し、実施内容や時間は連絡帳や口頭で保護者に伝えている。 | 時間やタイミング、場所や状況など、保護者の考えと職員の把握無いようにズレを感じれば、個別に調整する。 |
| | ④⑫ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | 主治医の指示書に基づいて、アレルギー対応を行っている。 | |
| | ④⑬ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 報告内容は書面にまとめ、情報を共有している。 | |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。